

【中学校の部】優秀賞

思い出と生きる

日出町立日出中学校 1年

おまた ひいろ
小俣 日彩

私にとって「ふるさと」というと、海と山に囲まれ、自然豊かで居心地が良く、そこに住む人がとてもあたたかいというイメージがある。

私は幼少期、東海地方に住んでいたため長期休暇になると、祖父母の住んでいる日出町に帰省するのが楽しみだった。帰省すると、祖父母が畑で作ってくれた季節の野菜を収穫して、食べさせてくれるのがとてもうれしかった。なかでもとうもろこしは私の大好物だ。スイカ割りも恒例行事だった。桜が咲く季節は神社に行ってお花見をした。毎年、誕生日にハーモニーランドでバースデーパーティーをしてもらう事がとてもうれしかった。私にとって、日頃できない事を経験できる特別な場所だった。

6歳の頃、父の仕事の関係で引っ越すことになった。生活の場所は少しでも知っている所という事で日出町になった。新しい環境での生活がスタートしたが、周りの人はとてもあたたかく、家族みんなすぐに慣れていった。そして、一生懸命に田んぼや畑づくりをする祖父母の姿を近くで実際に見る事ができた。田植えの時は、兄と一緒に稲を植える前の田んぼで走り回り、泥だらけになって遊んだ。そして、実際に田植えも経験させてもらった。水のはった田んぼの歩道にホタルが沢山いて、毎年きれいなホタルを見れた。高齢になり、動けなくなったひいおばあちゃんにホタルを一匹手のひらに包んで帰り、見せてあげるとひいおばあちゃんは笑顔で喜んでくれた。私はこのふるさとの自然をたくさん知ることができた。

今年もおじいちゃん、おばあちゃんが作ったとうもろこしは甘くてとても美味しかった。しかし、私は最近よく思う事がある。あと何年こうして祖父母が作った美味しい野菜を食べられるかなと。私の大切な思い出はずっと心にあり続けるが、ふるさとの景色はどう変わっていくだろう。ここ数年で田んぼだった場所に大きな施設が次々と建てられ、水のはった田んぼの景色を見る事がずいぶん減ってきた。私の祖父も数年前に病気をして米作りをやめた。高齢化とともに後継者の問題も関わってくるだろう。景色や、私をとりまく環境が少しずつ変わってきて、今まで経験してきた事がとても特別なものだったと気付くようになった。

東海から大分に遊びに来てくれた友達は大分って最高と言ってくれる。私はそんなふるさとがとても大好きだ。今の私にはまだ大きな事はできないが、ふるさとの自然や文化を大切にし町の良さを友達に伝える事、そんな小さなことから未来は動き出す気がする。他の地域で生活した経験があるからこそ、比較してみれる材料にもなると思う。

私の将来の夢は、医療関係の仕事につくことだ。医療の知識や技術を身につける事はもちろんであるが、まずは、人間対人間の関わりがとても重要になってくると思う。これまであたたかく接してくれた地域の方達のように、私も心あたたかい人間に成長していきたい。そして、仕事を通じて地域の方ともなんらかの形で接していけたらいいなと考える。それが、今の私にできるふるさとへの恩返しだと思う。

ふるさとを想い、行動する人が一人でも増えれば、かならずその町の未来にとって大きな力になるはずだ。

ふるさとの未来を明るくする一歩を私自身が踏み出していきたい。